

北大東島から得られた北西太平洋初記録のニザダイ科魚類 *Naso caesius* ユミハリテングハギモドキ (新称)

笹木大地¹・高橋夢加^{2,3}・木村清志²

¹ 〒 517-0404 志摩市浜島町浜島 3564-3 三重県水産研究所

² 〒 514-8507 津市栗真町屋町 1577 三重大学大学院生物資源学研究科

³ 現所属：〒 421-0212 焼津市利右衛門 1334-5 いであ株式会社環境創造研究所

(2020年5月4日受付；2020年7月29日改訂；2020年7月29日受理；2020年9月10日J-STAGE 早期公開)

キーワード：テングハギ属, 日本初記録, 北限記録, 分布, 形態

魚類学雑誌
Japanese Journal of
Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 2020

Daichi Sasaki*, Yumeka Takahashi and Seishi Kimura. 2020. Gray Unicornfish, *Naso caesius* (Acanthuriformes: Acanthuridae), from Kita-daito-jima, Daito Islands, Okinawa Prefecture, Japan; first northwest Pacific record. Japan. J. Ichthyol., 67(2): 195–201. DOI: 10.11369/jji.20-014.

Abstract A single specimen of the acanthurid fish *Naso caesius* Randall and Bell, 1992 (Acanthuriformes), previously reported from Micronesia, Polynesia, Melanesia, eastern Indonesia, New Guinea and Australia, was recently collected from Kita-daito-jima, Daito Islands, Okinawa Prefecture, Japan, the northernmost record for the species and first from the northwest Pacific Ocean. *Naso caesius* differs from its congeners in having two semicircular keels lacking antrorse spines on the caudal peduncle bony plates, no horn-shaped process on the forehead, VI–VII, 27–30 dorsal-fin rays, 28–31 anal-fin soft rays, 16–18 pectoral-fin rays, a truncate caudal fin in adults, vertically elongate pale blotches on the upper two-thirds of the body, and a white tongue and brown anal fin. The new standard Japanese name “Yumihari-tenguhagimodoki” is proposed for the species.

*Corresponding author: Mie Prefecture Fisheries Research Institute, 3564-3 Hamajima, Hamajima-cho, Shima, Mie 517-0404, Japan (e-mail: sasaki.dobo@gmail.com)

テングハギ属 *Naso* Lacepède, 1801 は尾柄側面に不可動の骨質板を1–2個もつニザダイ目ニザダイ科 (Acanthuriformes: Acanthuridae) の海産魚類である。本属魚類は、インド・太平洋域から20有効種が認められ (Randall, 2001, 2002; Johnson, 2002; Ho et al., 2011), このうち日本では15種が知られている (島田, 2013; 瀬能ほか, 2013; 松沼・本村, 2013)。なお、従来ニザダイ科はスズキ目 (Perciformes) の一群とされていたが、ここでは Nelson et al. (2016) や矢部 (2017) にしたがって、ニザダイ目 (Acanthuriformes) とした。

2020年1月2日に沖縄県北大東島で1個体のテングハギ属魚類が採集された。本標本を精査したところ、*Naso caesius* Randall and Bell, 1992 に同定された。本標本は日本を含む北西太平洋からの

本種の初記録であり、本種の北限記録でもあることから、詳細に記載するとともに、本種に対する新標準和名を提唱する。

計数・計測項目と方法は Randall and Bell (1992), Ho et al. (2011) および松沼・本村 (2013) にしたがった。標準体長は SL と表記した。計測はデジタルノギスおよびノギスを用いて 0.1 mm 単位で行った。計数値は SL に対する百分率で示した。本研究に用いた標本は三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本 (FRLM) として保管されている。

Naso caesius Randall and Bell, 1992
ユミハリテングハギモドキ (新称)
(Figs. 1a, 2a, 3; Table 1)



Fig. 1. Fresh specimen of *Naso caesioides*, FRLM 58416, 379 mm SL (A) and *N. hexacanthus*, FRLM 58417, 378 mm SL (B); both collected from Kita-daito-jima, Daito Islands, Okinawa Prefecture, Japan.

記載標本 FRLM 58416, 379 mm SL, 雄, 沖縄県北大東島江崎港, 25.9289°N, 131.3042°E, 釣り, 2020年1月2日, 採集者: 田城信康, 笹木大地.

識別的特徴 *Naso caesioides* は背鰭軟条数が 27–30 であること, 臀鰭軟条数が 28–31 であること, 胸鰭軟条数が 16–18 であること, SL が体高の 2.5–2.8 倍であること, 前頭部に角状突起がないこと, 尾柄部骨質板が 2 個, 翼状隆起縁が半円形で大型雄でも前向棘がないこと, 尾鰭が若魚 (114 mm SL と 178 mm SL のパラタイプ) では湾入形, 大型の成魚では截形で, 両葉の先端が伸長しないこと, 生鮮時にやや不明瞭な背腹方向に長い楕円形の淡色斑が体表の上部 3 分の 2 程度の範囲にみられること, 下唇は体色と同様であること, 臀鰭の地色がほぼ体色と同様であること, 未成魚と一部の成魚では背鰭棘条部から軟条部前半にかけて, 楕円形の黒褐色斑が上後方に向う 2–4 斜列を呈し, 軟

条部中央より後方では円形の黒褐色斑が背鰭縁辺と平行に並び, 臀鰭軟条部には 1–4 列の黒褐色斑が並ぶこと, 固定後の前鰓蓋骨縁辺に暗褐色帯がないこと, 鰓孔後縁が体色の地色と同様であること, 舌は乳白色で後部は橙色を帯びること, 鰓耙はわずかに橙色を帯びた乳白色であることにより同属他種から区別される (Randall and Bell, 1992; Randall, 2001; 2002; 本研究).

記載 計数形質と計数値の SL に対する百分率を Table 1 に示した. 体は細長い楕円形で, 側扁する. 体高は背鰭第 1 軟条基底付近で最大となり, 吻から後頭部にかけての頭部背縁はゆるやかな曲線を描き, 明瞭な突出部はない. 頭部腹縁も背縁と同様. 軀幹部から尾部にかけての背縁と腹縁は背鰭第 1 軟条と臀鰭第 2 軟条の基部を頂点として, 尾柄部に向かってそれぞれ下降, 上昇する. 尾柄はほぼ円筒形で, 後方に向かって細くなり,

Table 1. Counts and measurements of *Naso caesius*

	Japanese specimen FRLM 58416	Holotype* BPBM 29160	Paratypes and additional materials* n=19
Standard length (mm)	379	369	114–480 (316.3, 7)
Counts			
Dorsal-fin spines	VI	VI	VI–VII (6.2, 19)
Dorsal-fin soft rays	28	28	27–30 (28.5, 19)
Anal-fin rays	II, 29	II, 30	II, 28–31 (29.5, 19)
Pectoral-fin rays	17	17	16–18 (17.1, 19)
Gill rakers	4 + 9	5 + 11	3–5 + 8–11 (7)
Measurements			
As % of SL			
Head length	24.5	23.9	22.6–26.0 (24.2, 7)
Body depth	37.1	37.4	36.2–44.7 (38.5, 7)
Body width	10.2	13.2	12.0–13.3 (12.7, 7)
Predorsal length	27.8	26.5	25.8–31.4 (27.5, 7)
Prepectoral length	23.3	—	—
Prepelvic length	27.9	27.6	26.4–28.8 (27.4, 7)
Preanal length	34.9	35.9	33.4–39.4 (35.5, 7)
Snout length	14.7	14.3	13.3–15.2 (14.3, 7)
Eye diameter	5.0	5.0	4.4–8.6 (5.9, 7)
Interorbital width	8.5	8.3	7.9–8.8 (8.3, 7)
Upper jaw length	5.2	4.7	4.5–5.4 (4.9, 7)
Suborbital width	10.8	—	—
1st dorsal-fin spine length	10.2	10.9	8.4–13.6 (10.7, 7)
2nd dorsal-fin spine length	9.2	—	—
3rd dorsal-fin spine length	9.5	—	—
4th dorsal-fin spine length	9.5	—	—
5th dorsal-fin spine length	9.5	—	—
6th dorsal-fin spine length	9.5	—	—
Longest dorsal-fin soft ray length	9.8	11.1	10.0–11.2 (10.5, 7)
Last dorsal-fin soft ray length	5.9	6.3	5.7–6.9 (6.4, 7)
1st anal-fin spine length	7.0	7.4	7.2–8.1 (7.6, 4)
2nd anal-fin spine length	6.8	—	—
Longest anal-fin soft ray length	9.0	9.9	9.2–9.9 (9.6, 7)
Last anal-fin soft ray length	5.9	5.9	5.8–6.7 (6.2, 7)
Caudal fin length	23.0	14.7	13.2–24.8 (18.7, 7)
Pectoral fin length	16.8	15.5	15.4–18.3 (16.3, 7)
Pelvic-fin spine length	10.6	10.1	9.1–13.2 (10.7, 7)
Pelvic-fin soft ray length	11.1	10.9	10.2–14.2 (11.7, 7)
Caudal peduncle length	13.8	13.7	10.2–14.2 (12.7, 7)
Caudal peduncle depth	3.9	3.9	3.7–4.9 (4.2, 7)
Caudal peduncle width	4.7	—	—
Caudal concavity	2.1	3.2	2.7–9.1 (6.8, 7)
Caudal fork length	10.3	—	—

— no data; Figures in parentheses indicate mean values and sample size.

*Data from Randall and Bell (1992).

尾鰭始部直前の背腹両側に発達した欠刻をもつ。鼻孔は2つで眼の中央前方にある。前鼻孔は後鼻孔よりもやや大きく、開口部に薄い肉質の縁をもち、後縁に小さな三角形の皮弁をもつ。後鼻孔は眼の前縁と前鼻孔の中間より前方に位置する。眼の前方に1本の溝がある。溝は吻端と眼の前縁を結ぶ直線の中央よりもやや後方から始まり、浅く、前鼻孔下までほぼこの直線と平行に後方に進む。その後、溝は約45°の角度で上屈し、深くなり、眼の前方に達する。口はわずかに突出する。両顎は1列の円錐歯で構成される。上顎歯は著しく破損しているため、計数不能であった。下顎歯は一部破損しているが約70本。両唇は薄い。舌の先端は円く、口腔床部と癒着する。頭部と体は無鱗の下唇を除いて微細で粗雑な鱗に覆われる。眼の前方にある溝の上縁と内部は棘状の鱗が発達する。各鰭の鰭条は微細で粗雑な鱗に覆われるが、鰭膜と胸鰭基底の関節部は無鱗。尾柄側面に2個の固着した円形骨質板があり、不可動の翼状隆起縁が発達する。隆起縁は鉤状にならず半円形 (Fig. 2a)。側線は眼の上縁やや下の鰓孔上方から始まり、体背縁にほぼ平行して後方に進み、背鰭第21軟条から24軟条にかけて急降下して、その後直走し、尾柄の前方骨質板のわずかに前方で終わる。背鰭は主鰓蓋骨後端上方から始まる。背鰭縁辺は体背縁にほぼ平行。すべての背鰭棘はほぼ同長で、わずかに第1棘が長い。棘条部と軟条部の高さはほぼ同じであるが、軟条部後部は徐々に低くなる。臀鰭は背鰭第5棘基底下に始まり、棘条部と軟条部の高さはほぼ同じで、鰭の縁辺は体腹縁にほぼ平行。胸鰭始部は鰓孔直後に位置する。胸鰭は第2分枝軟条が最長で、それより下方の鰭条は徐々に短くなり、鰭の後縁はわずかに円みを

おびる。腹鰭は胸鰭基底後端直下に位置し、第1軟条が最長で、鰭の先端は尖る。尾鰭はほぼ截形で、後縁はわずかに湾入する。尾鰭両葉の鰭条は伸長しない。

色彩 生鮮時の頭部や体は赤みを帯びた灰色で背側面は腹側面に比べやや濃い、やや不明瞭な背腹方向に長い楕円形の淡色斑が体表の上部3分の2程度の範囲にみられる。下唇は赤みを帯びた灰色。前鰓蓋骨縁辺に暗褐色帯はない。鰓孔腹縁は黒ずむ。尾柄部骨質板は赤みを帯びた灰褐色。背鰭の地色は褐色で、軟条部の縁辺は黒褐色。背鰭棘条部から第9軟条にかけて、楕円形の黒褐色斑が上後方に向う2斜列を呈する。背鰭第9軟条より後方では円形の黒褐色斑が背鰭縁辺と平行に3列に並ぶ。臀鰭の地色は褐色で体色よりやや明るく、縁辺は黒褐色。臀鰭軟条部には1列の黒褐色斑が並ぶが、背鰭と比較して不明瞭。尾鰭は赤みを帯びた灰色で縁辺はわずかに暗い。胸鰭は基底付近が赤みを帯びた灰色で、中央付近から後部にかけて黒褐色、後縁はほぼ透明。腹鰭は灰白色で先端部は黒ずむ。

15%ホルマリン水溶液で固定した後、70%エタノールで保存した標本では、頭部や体の背側面は黒褐色、腹側面はやや赤みを帯びた灰褐色。体表の楕円形淡色斑は生鮮時に比較して不明瞭になる。前鰓蓋骨縁辺に暗褐色帯はなく、鰓孔腹縁は黒い。口腔内は乳白色、舌も乳白色で後部は橙色を帯びる。鰓耙はわずかに橙色を帯びた乳白色。尾柄部骨質板は黒褐色で翼状部は褐色。腹鰭を除く各鰭は生鮮時より暗色となり、不對鰭の地色は赤みを帯びた灰褐色。背鰭軟条部の斑紋はやや不明瞭であるが、臀鰭の斑紋は不明瞭になる。胸鰭は黒い。腹鰭の棘と第1軟条は赤みを帯びた淡褐色

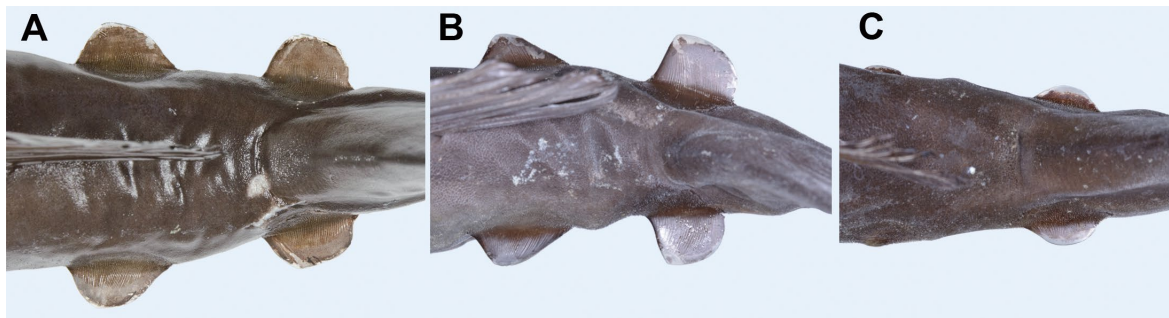


Fig. 2. Dorsal view of caudal peduncle bony plates in two species of *Naso*. A, *Naso caesius*, FRLM 58416, 379 mm SL, Kita-daito-jima, Daito Islands, Okinawa Prefecture, Japan; B, *N. hexacanthus*, FRLM 58417, 378 mm SL, Kita-daito-jima, Daito Islands, Okinawa Prefecture, Japan; C, *N. hexacanthus*, FRLM 50764, 280 mm SL, Yonaguni-jima, Yaeyama Islands, Okinawa Prefecture, Japan. Anterior to left.

で後部は灰白色，先端部は黒ずむ。

分布 マーシャル諸島，ハワイ諸島，マリアナ諸島，ピトケアン諸島，ソシエテ諸島，ニューカレドニア，サンゴ海，フィジー (Randall and Bell, 1992)；チモール海 (Kuitert and Debelius, 2001)；パラオ，グレートバリアーリーフ (Randall, 2002)；トンガ (Randall et al., 2004)；インドネシア (西パプア)，パプアニューギニア，ソロモン諸島，オーストラリア北西部沖 (Allen and Erdmann, 2012)；沖縄県北大東島 (本研究)。

備考 今回得られた標本は背鰭軟条数が28，臀鰭軟条数が29，胸鰭軟条数が17であること，SLは体高の2.7倍であること，前頭部に角状突起がないこと，尾柄部骨質板が2個で，翼状部は半円形で棘状にならないこと，尾鰭に伸長軟条を欠くこと，生鮮時にやや不明瞭な背腹方向に長い楕円形の淡色斑が体表の上部3分の2程度の範囲にみられること，下唇の色彩は体色と同様で白くないこと，固定後の前鰓蓋骨縁辺に暗色帯がないこと，舌は黒くないこと，鰓耙は淡色であることなどがRandall and Bell (1992) の原記載による *Naso caesius* の特徴と一致し，さらに，Randall (2001) におけるテングハギ属の種の検索にしたがった結果も本種に同定された。本種は生時の体色が青みを帯びた灰色であることが特徴であり，その体色に基づいて種小名「*caesius*」とされた (Randall and Bell, 1992)。しかし，今回得られた標本の生鮮時の体色は赤みを帯びた灰色であった。本標本とは別に，本種と同定可能な個体が2020年1月3日に北大東島で釣獲された。この個体は

標本として残されていないものの，尾柄部骨質板翼状部が半円形で前向棘がないことや体側に背腹方向に長い楕円形の淡色斑が多数あること，背鰭鰭膜に明瞭な黒褐色の斑紋があることが確認された。この個体の釣獲直後の写真 (Fig. 3) で，体は明瞭に青みを帯びていることから，体色の青みは死後急速に消失するのではないかと考えられる。なお，この写真個体 (Fig. 3) は体側面上半部に多数の眼径の半分程度の円形あるいは楕円形暗褐色斑があり，本報告の標本 (FRLM 58416 : Fig. 1a) と異なる。原記載 (Randall and Bell, 1992) では，死に至る直前の個体には暗灰色の斑紋が体上半部にあると記述され，この個体の暗褐色斑はこれと一致している。体色以外に本標本は体幅，最長背鰭軟条長，臀鰭第1棘条長，尾鰭両葉の先端を結ぶ線と湾入部の最深部の水平距離 (caudal concavity) のSL比も，Randall and Bell (1992) の示した値と多少異なっていた (Table 1)。しかし，その差異はわずかであったため，これらは種内変異であると考えた。Randall and Bell (1992) は本種の背鰭と臀鰭の斑紋は未成魚にみられ，成魚では不明瞭または消失するとしている。ホロタイプ (369 mm SL) のスケッチ (Randall and Bell, 1992 : fig. 2) においても斑紋は描かれていない。今回得られた標本 (379 mm SL) とホロタイプはほぼ同体長であるが，背鰭と臀鰭の斑紋には大きな違いがみられ，この形質はRandall and Bell (1992) が示した成長で模様に変化する以外に，個体差がある可能性も考えられた。

本種は尾柄部骨質板が体色とほぼ同様の灰褐色



Fig. 3. *Naso caesius* immediately after capture (specimen not retained) at Kita-daito-jima, Daito Islands, Okinawa Prefecture, Japan.

あるいは黒褐色で2基あること、前頭部に角状突起がないこと、吻部が前方に突出しないこと、背鰭棘数が6-7であることから、テングハギモドキ *Naso hexacanthus* (Bleeker, 1855), ゴマテングハギモドキ *Naso maculatus* Randall and Struhsaker, 1981 およびシノビテングハギ *Naso tergus* Ho, Shen and Chang, 2011 に類似する。さらに、臀鰭軟条数が28-31であること(ゴマテングハギモドキでは26-28: Randall and Struhsaker, 1981; Randall, 2001), 体背側面に暗褐色斑点がないあるいは眼径の半分程度の円形や楕円形の暗褐色斑があること(ゴマテングハギモドキでは円形の小暗色斑点があり, 側線に沿って線状につながる: Randall and Struhsaker, 1981; Randall, 2001), 尾柄部骨質板翼状部に前向棘がないこと(シノビテングハギでは前向棘がある: Ho et al., 2011; 松沼・本村, 2013; 高橋・木村, 2020), 体高が高いこと(標準体長比36.2-44.7%; テングハギモドキ38.2-44.8%; シノビテングハギ34.4-36.8%: Randall and Bell, 1992; 松沼・本村, 2013; 高橋・木村, 2020) から, これら3種のうちテングハギモドキと最もよく似る。しかし本種は生鮮時の臀鰭の地色が褐色であること(テングハギモドキでは黄色: Fig. 1b), やや不明瞭な背腹方向に長い楕円形の淡色斑が体表の上部3分の2程度の範囲にみられること(体に淡色斑はない), 未成魚と一部の成魚の背鰭に円形の黒褐色斑列があること(円形の斑紋はない), 臀鰭に黒褐色斑があること(暗色斑はない), 生鮮時および固定後の下唇の色彩はいずれも体色と同様であること(白あるいは体色より薄い), 前鰓蓋骨縁辺に暗褐色帯がないこと(通常暗褐色帯がある), 固定後の舌は乳白色で後部は橙色を帯びること(全体が青みを帯びた黒色, あるいは前方と縁辺は青みを帯びた黒色でそれ以外は暗い象牙色)から区別される。

本種の尾柄部骨質板翼状部は大型雄でも前向棘がない(Randall and Bell, 1992: fig. 1a)。一方, テングハギモドキでは翼状部の形状は性および成長にともなって変化し, 大型雄では前向棘をもつとされる(Randall and Bell, 1992: fig. 1b)が, 378 mm SLの雌(FRLM 58417)では前方の骨質板翼状部は三角形ではあるものの, 明瞭な前向棘は形成されていない(Fig. 2b)。さらに, 280 mm SLより小型の個体では半円形である(Fig. 2c)。したがって, 大型雄を除いて尾柄部骨質板翼状部の形状からでは両種を区別できない。

Randall (2001) では, 本種は赤道付近を除いたオセアニアの海洋島に分布するとされている。し

かし, 本種はチモール海 (Kuitert and Debelius, 2001) やグレートバリアーリーフ (Randall, 2002), ニューギニア島およびオーストラリア北西部沖 (Allen and Erdmann, 2012) にも分布しており, 赤道付近や海洋島以外にも広く分布している。

Naso caesioides には標準和名が与えられていなかったため, 新標準和名ユミハリテングハギモドキを提唱する。「弓張」は半月を意味する古語であり, 本種の尾柄部骨質板翼状部が半円形であることに由来する。

比較標本 テングハギモドキ *Naso hexacanthus*—6個体 (201-378 mm SL): FRLM 50764, 50765, 2個体, 255-280 mm SL, 沖縄県与那国島久部良, 2015年3月13日; FRLM 51959, 201 mm SL, 沖縄県与那国島久部良, 2015年9月20日; FRLM 52035, 52036, 2個体, 235-258 mm SL, 沖縄県与那国島久部良, 2015年9月22日; FRLM 58417, 378 mm SL, 沖縄県北大東島江崎港, 2020年1月2日。

謝 辞

本標本の同定に的確な助言をいただいたビショップミュージアムの故 John E. Randall 博士に深甚の謝意を表す。神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士にはテングハギモドキの写真を提供いただいた。また, 本標本をはじめ北大東島での標本採集では三重大学大学院生物資源学研究所/生物資源学部 OB の小野田和哲氏と田城信康氏, ハマユウ荘うふあがり島のスタッフの方々, 標本作成や写真撮影には三重大学大学院生物資源学研究所水産実験所の小川清宏氏, 同研究所 OB の宿女大志氏および同研究所の阿部公哉氏の協力を得た。また, 2名の匿名の査読者からは貴重なコメントを多数頂戴した。これらの方々に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1-3. Tropical Reef Research, Perth. xiii + 1292 pp.
- Bleeker, P. 1855. Zesde bijdrage tot de kennis der ichthyologische fauna van Amboina. Nat. Tijdschr. Ned. Ind., 8: 391-434.
- Ho, H.-C., K.-N. Shen and C.-W. Chang. 2011. A new species of the unicornfish genus *Naso* (Teleostei: Acanthuridae) from Taiwan, with comments on its phylogenetic relationship. Raffles Bull. Zool., 59: 205-

- 211.
- Johnson, J. W. 2002. *Naso mcdadei*, a new species of unicornfish (Perciformes: Acanthuridae), with a review of the *Naso tuberosus* species complex. *Aust. J. Zool.*, 50: 293–311.
- Kuiter, R. H. and H. Debelius. 2001. Surgeonfishes, rabbitfishes and their relatives: A Comprehensive Guide to Acanthuroidei. TMC Publishing, Chorleywood, UK. 208 pp.
- Lacepède, B. G. E. 1801. *Histoire naturelle des poissons*. vol 3. Prasson, Paris. i–lxvi + 558 pp, Pls. 1–34.
- 松沼瑞樹・本村浩之. 2013. 鹿児島県トカラ列島から得られた日本初記録のニザダイ科シノビテングハギ (新称) *Naso tegrus*. *魚類学雑誌*, 60: 103–110.
- Nelson, J. S., T. C. Grande and M. V. H. Wilson. 2016. *Fishes of the World*. 5th edition. John Wiley & Sons, Hoboken, New Jersey. v–xli + 707 pp.
- Randall, J. E. 2001. *Naso reticulatus*, a new unicornfish (Perciformes: Acanthuridae) from Taiwan and Indonesia, with a key to the species of *Naso*. *Zool. Stud.*, 40: 170–176.
- Randall, J. E. 2002. Surgeonfishes of Hawai'i and the world. Mutual Publishing, Honolulu. 123 pp.
- Randall, J. E. and L. J. Bell. 1992. *Naso caesius*, a new acanthurid fish from the central Pacific. *Pac. Sci.*, 46: 344–352.
- Randall, J. E. and P. J. Struhsaker. 1981. *Naso maculatus*, a new species of acanthurid fish from the Hawaiian Islands and Japan. *Copeia*, 1981: 553–558.
- Randall, J. E., J. T. Williams, D. G. Smith, M. Kulbicki, G. M. Tham, P. Labrosse, M. Kronen, E. Clua and B. S. Mann. 2004. Checklist of the shore and epipelagic fishes of Tonga. *Atoll Res. Bull.*, 502: 1–35.
- 瀬能 宏・御宿昭彦・伊東正英・本村浩之. 2013. 日本初記録のニザダイ科テングハギ属の稀種マサカリテングハギ (新称) とその分布特性. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 42: 91–96.
- 島田和彦. 2013. ニザダイ科. 中坊徹次 (編), pp. 1619–1631, 2215–2218. 日本産魚類検索 全種の同定. 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 高橋夢加・木村清志. 2020. 三重県志摩市から得られたシノビテングハギの三重県初記録および北限記録. *Nature of Kagoshima*, 46: 415–417.
- 矢部 衛. 2017. 26章 硬骨魚類. 矢部 衛・桑村哲生・都木靖彰 (編), pp. 325–365. *魚類学*. 恒星社厚生閣, 東京.